

令和 3年度 施策評価シート（令和 2年度実績評価）

政策 03 こころ豊かに暮らせるまち
施策 01 学校教育の充実
主管課： 学校教育課
関係課： 企画課、指導室、学校給食センター

1 施策の目的

対象（誰、何を対象としているか） 児童生徒	意図（どのような状態にしたいのか） 学校生活を楽しく過ごし、心身ともに健康で人間性豊かな人に成長できるまちをつくる。 社会の変化に対応した行動ができる子どもを育成する。
--------------------------	--

2 施策の成果状況（意図の達成度を図る成果指標とその動向）

学校が楽しいと思う児童の割合（小学生）				（％）		学校教育課
基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
92.70	95.10	93.80	93.80	95.70	94.30	95.00
向上指針	上がると良い	（状況）昨年度よりも1.4ポイント下落しましたが、達成状況は目標値に近い数値を示しています。 （原因）令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休業措置や夏季期間の短縮などに伴い学習計画や学校行事等を大幅に変更せざるを得ない状況であったことが影響していると考えられます。				
対前年度	横ばい					
目標達成度	中					
次年度課題	課題としない					

学校が楽しいと思う生徒の割合（中学生）				（％）		学校教育課
基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
85.80	93.80	88.60	90.90	90.90	83.40	90.00
向上指針	上がると良い	（状況）昨年度に比べ7.5ポイント下落し、目標値に達していません。 （原因）令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う休業措置や夏季期間の短縮等に伴う学習計画の大幅な変更、各種大会及び修学旅行を中止せざるを得ない状況であったことが影響していると考えられます。				
対前年度	低下					
目標達成度	低					
次年度課題	課題としない					

基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
向上指針						
対前年度						
目標達成度						
次年度課題						

3 施策に係るコスト（単位：千円）

	H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度
	決 算	決 算	決 算	予 算	見 込
事業費合計	2,066,459	1,959,786	3,434,079	3,299,284	2,689,174
人件費	62,645	67,987	58,752	0	0
トータルコスト	2,129,104	2,027,773	3,492,831	3,299,284	2,689,174

4 基本事業の状況

基本事業名称	成果指標の動向					事業費				
						H30年度	R01年度	R02年度	R03年度	R04年度
01 確かな学力の育成			横ば			80,051	77,746	160,911	196,184	196,184
02 豊かな心を育む教育の推進	低下	低下				15,672	17,160	28,744	39,529	39,529
03 健康と体力を育む教育の推進			低下			511,043	507,785	504,553	587,641	604,111
04 時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	横ば	向上				265,388	265,626	706,474	454,706	454,666
05 開かれた学校づくりと学校・家庭・地域の連携	低下	横ば				0	0	0	0	0
06 安全・安心な教育環境の整備	向上					871,456	919,868	1,852,268	1,821,935	1,225,443
99 施策の総合推進						322,849	171,601	181,129	199,289	169,241

5 施策全体の取組状況と課題

前年度の取組内容、成果及び次年度以降に向けた課題

臨時休業及び夏休期間の短縮等により年間学習計画の大幅な変更を行いました。各小学校高学年に市費負担教員を配置し、専門的な教科指導による授業の質、学習意欲・学力向上、全中学校に外国語指導員を複数配置し、英語のコミュニティ能力の向上に努めました。その他、国のGIGAスクール構想の実現に向け、年度内に児童生徒1人1台のタブレット端末の配備及び校内ネットワーク環境の再整備を行いました。今後の学校教育は、ICT機器を活用した授業が中心となることから、教職員のICTスキルアップ研修やポート体制の充実が必要です。	推進状況	順調
	次年度への課題	課題あり
	成果方向性	向上
	コスト方向性	増加

当該年度の全庁決定の方向性（前年度の全庁政策会議での決定事項）

守谷型カリキュラム・マネジメントを推進するとともに、教科担任制を導入し、専門性ある教員により授業の質を向上させます。また、大規模校と全中学校にALTを複数配置、実用英語検定料の補助制度を導入することで外国語教育の更なる推進を図ります。国のGIGAスクール構想に基づく1人1台の端末整備を早期に実現し、児童生徒の学びを保障できる環境を提供します。中央図書館と連携して、読書・学習・情報の3機能を備えた学校図書館への転換を促進します。総合教育支援センターに配置したいじめ対策指導員により、関係機関と連携し組織的にいじめ問題に対応します。	成果方向性	向上
	コスト方向性	増加

次年度の方向性

コロナ時代における学校での新しい生活様式「第3次学校教育改革プラン」に基づき、ICT機器を活用した授業の展開、学校と家庭のデジタル連携、ICT教育を推進する体制を構築します。また、いじめ・不登校ゼロを目標に強化週間の創設やスクールソーシャルワーカーを配備します。その他、児童生徒の心と体を育てるために、通常より昼休み時間を長く設定し、体力及びコミュニケーション能力等の向上に努めます。新型コロナウイルスに対応する新しい学校生活様式を確立させるため、各学校に感染症対策消耗品等を配備するとともに、学校環境サポーターの配置や校外学習のバス増便分の補助等を行います。	成果方向性	向上
	コスト方向性	削減